

「自ら考え判断し、行動できる児童の育成 ～防災教育を通して～」

平成 24 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 四万十市立下田小学校

I 学校における背景、問題意識

下田小学校が建っている四万十市下田地区には、四万十川の海の玄関口である下田港がすぐ近くにあり、本校の校庭の海拔は 3.9m という低い位置にある。最大規模の南海トラフ地震が発生した場合の県の想定では、震度 7、津波浸水深 3.0 ～ 5.0m、30 cm の津波到達時間 20 ～ 30 分という甚大な被害が懸念される厳しい数字となっている。

東日本大震災の日は津波注意報を受けて、実際に近くの下田中学校に避難した経緯もある。このような実情から、児童一人ひとりが自分の命は自分で守ることを徹底させるとともに、家庭・地域・関係機関と連携した防災活動・防災教育・避難訓練等、早急な防災対策が必要である。

そこで、平成 24 年度は「自ら考え判断し、行動できる児童の育成～防災教育を通して～」という研究主題を掲げ、「自分の命は自分で守る子」「人を思いやり助け合える子」の姿をめざして、家庭や地域とのつながりを大切にしながら、全教育活動を通して防災教育を進めることにした。

II 取組のポイント

- ◆防災体制づくり、防災マニュアルの見直し
- ◆各学年の防災を視点にあてた取組と研究授業（他教科、領域とも関連付けて）
- ◆様々な場面を想定した実践的避難訓練
- ◆家庭や地域と連携した防災活動
- ◆防災意識を高める取組

III 取組の概要

1 下田小の防災教育の目標

「自ら考え判断し、行動できる児童の育成～防災教育を通して～」

「自分の命は自分で守る子」
「人を思いやり助け合える子」

2 防災教育 学年指導目標

<低学年>

下田のことを知ろう

- ・友達や身近な人々への関心を高め、学校や校区にある安全な施設について理解する。
- ・友達や身近な人と仲良く行動できる態度を育てる。

<中学年>

下田の防災について考えよう

- ・下田の土地や気候、自分たちのくらしを守ってくれる人や施設について理解する。
- ・命の大切さについて考え、自分たちを支えてくれる人々に感謝する心を持つ。

<高学年>

命の大切さと地域の未来を考えよう

- ・災害が起こる原因について理解する。
- ・災害が起きたときに自分たちができることを考え、実行しようとする意欲と態度を育てる。

3 取組内容

(1) 各学年の防災を視点にあてた取組

①第 1 学年 実践

生活「下田の町をしらべよう」

（通学路の危険な場所や安全な場所について調べよう）



【絵地図】

②第2学年 実践

音楽「防災ソングを作ろう」

(防災学習で学んだ大切なことを歌にして、大切な人に聞いてもらおう)

～あたりまえ体操編～

- ・あたりまえあたりまえあたりまえ津波
じしんが 一分つづくと つなみだ
- ・あたりまえあたりまえあたりまえ地震
道ばたで じしんがきたら 手は頭
- ・避難場所を見つけたら 安心
- ・ゆうどうくんの 矢印見れば 逃げれる
- ・地震が来たら 机にかくれる きまりだ
- ・ブロックべいの 横にいたら あぶない
- ・机にかくれて 机の足もて うごかれん

～友だちになるために編～

＜安全にするために＞

- ・あんぜんに するために
つくえの下にかくれよう
頭をまもるために つくえの足をもって
ゆれがおさまったら
中学校 下田公園に
いそいで にげるんだ 命をまもるために
いそいで ひなんばしょに にげよう
中学校 下田公園 にげるんだ
あんぜんに ひなんするなら
ひなんどう ルールをまもると
きっと たすかる

③第3学年 実践

社会「わたしたちのまちはどんなまち」

(下田のまちの特色、土地の様子、人々の暮らしの様子を知ろう)



【避難路の探検】

④第4学年 実践

国語「みんなで新聞を作ろう」

(防災についての学習を記事に、新聞づくりに取り組む)



【できあがった新聞を紹介し合う】

⑤第5学年 実践

総合的な学習の時間「東日本大震災や阪神・淡路大震災について調べる」

(災害に備えて、安全のための様々な取組や努力を知る)



【調べたことをまとめる】

⑥第6学年 実践

総合的な学習の時間「災害に強い町づくり」(下田地区の特色や土地の様子を知り、災害対策や事前の備えについて考える)



自分たちができる
防災対策を考えよう

【自分たちができることを考える】

(2) 様々な場面を想定した実践的避難訓練 (年間 11 回)

【第 1 回避難訓練 (4 月 24 日)】

〈避難場所〉 下田公園

〈実施時間〉 春の遠足中

〈実施方法〉 遠足中の地震を想定し、各班毎に判断・行動させる。後で、その避難の仕方、避難した場所、その理由について発表し合った。

私は一番高いところに避難しました。その理由は津波がきた時は高いところに避難しなければいけないと思ったからです。がんばったことは、班のみんなをつれて行くことができたことです。(6年)



【第 2 回避難訓練 (5 月 7 日)】

〈避難場所〉 校舎～下田中学校校庭へ

〈実施時間〉 授業中

〈実施方法〉 授業中の地震・津波を想定。「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」を意識し、高台(中学校)へAコースを通過して避難した。

【第 3 回起震車体験 (6 月 26 日)】

〈実施場所〉 校庭

〈実施内容〉 学年によって地震の揺れの強度を変えて体験し、実際に地震が起きた時、どのような行動が身を守るかについて学んだ。

【第 4 回避難訓練 (7 月 19 日)】

〈避難場所〉 校舎～下田中学校玄関前へ

〈実施時間〉 授業中

〈実施方法〉 保育所との合同避難訓練。地震・津波想定。Bコース(保育所庭の避難階段から避難するルート)を通過して保育園児とともに中学校に避難した。今回の訓練から6年生が集合、人数確認・報告を担当させた。

ほいく園じの人たちが思いっきり走っていたのでがんばっているなと思いました。先生がならばせるかと思ったら6年生だったのでびっくりしました。6年生にかんしゃしたいです。(2年)

【第 5 回避難訓練 (9 月 2 日)】

〈避難場所〉 各家庭～各地域避難場所へ

〈実施時間〉 登校前(8時50分)

〈実施方法〉 四万十市一斉避難訓練と合同で地域・家庭とともに実施。登校時刻を遅らせ、市の避難訓練(午前8時50分)に各地域・家庭で参加。各地域に担当職員を配置、家庭とともに避難した。避難経路、避難開始～避難場所到着時刻、参加数等を適宜学校まで報告することとした。学校では、地図に各地域での児童の動き、時刻を記入した。



【雨の中での地域一斉避難訓練】

〈誰と避難〉 母、弟、妹、地域の人たち

〈どこに避難〉 山の中の墓

〈感想〉 墓へ避難した時、すごく階段がすべりやすかったのですが、雨がふってもあわてず、しんちょうにひなんしなければならぬなあと思いました。(5年)

【第 6 回避難訓練 (10 月 12 日)】

〈避難場所〉 校舎内～校庭中央へ

〈実施時間〉 掃除中

〈実施方法〉 掃除中に地震発生。けが人数を想定。けが人を背負っての避難や担架・リヤカーでの避難、防災用具の使い方を知る体験をした。



地震の時、けが人を助ける道具があるんだなと思いました。それを、きょうりよくして使って人を助けるので助け合いがひつようだなと思いました。(2年)

【第7回避難訓練（11月9日）】

〈避難場所〉体育館～学校の裏山へ
〈実施時間〉体育館で活動中
〈実施方法〉体育館で全校音楽集會中に地震発生。揺れが収まるまで体育館中央に集合し、Cコースを通過して裏山の日和山墓地へ避難した。複数の避難経路を確認しておくため、帰りはDコースを通過して帰校した。



【第8回避難訓練（12月22日）】

〈避難場所〉校舎～校庭へ
〈実施時間〉参観日授業中（前日の雨で校庭が使えず変更）
〈実施方法〉体育館で児童・保護者・地域の方を対象に四万十消防署、地区自主防災組織の方々の講話・防災実技指導、火災のDVD視聴。その後、炊き出し体験、防災グッズ作りを体験した。

【第9回避難訓練（1月18日）】

〈避難場所〉校舎～校庭～中学校へ
〈実施時間〉休み時間
〈実施方法〉事前学習や告知なしに突然の避難訓練を実施。児童が様々な場所にいる時間帯である休み時間に地震発生。これまでの成果を確認した。

休み時間に友達と、教室で理科の続きの「てこ」さがしをしていたら、急に放送がなりました。聞き覚えのある音だったので、すぐに地震だと分かりました。急いで机の下にもぐって頭を守り、揺れが収まったら、家庭科で作った防災頭巾をかぶって外に出ました。避難の時は、下級生に声をかけながらにげて、中学校に着いたら、担当の3年生を並ばせました。抜き打ちだったけど、私自身は今までで一番よくできたなと思いました。この調子で誰もがふざけず、もっと速く避難できるようにしたいと思いました。（6年）

【第10回避難訓練（2月22日）】

〈避難場所〉校庭中央
〈実施時間〉授業中
〈実施方法〉火事発生時の避難。

【第11回避難訓練（3月5日）】

〈避難場所〉平野海岸近くの高台
〈実施時間〉海岸への遠足中
〈実施方法〉海岸への遠足中の地震・津波を想定。海岸での避難の仕方、避難した場所、その理由について確認・検証した。

（3）家庭や地域と連携した防災活動

①地域一斉避難訓練（9月2日）

四万十市の総合防災計画に沿って、2学期の始業式に合わせ、地域一斉避難訓練を実施した。当日は、各地区毎に避難訓練開始のサイレンを合図に、各家庭より決められた避難場所に家族と共に、徒歩や自転車、自動車を利用して避難をした。避難場所では安否確認や避難路に問題はなかったかなどを確認した。地区によってはその後炊き出しの訓練を実施した。児童にとっては家庭にいる場合の避難場所や避難経路を確認する良い機会となったが、地区によっては放送がはっきりと聞き取れなかったり、避難路が急で草が茂っていたりする等の課題も残った。

②防災学習講演会等

地域の人材や防災に関するエキスパート、様々な機関と連携して講演会や学習会等を実施し、学習を深めると同時に、その情報を家庭や地域に発信した。

ア) 地域の方の体験談を聞く（5月21日）

下田地区に住む「沖階吉」さん夫妻に「地震から身を守る」という内容で、児童対象に



「昭和南海大地震、阪神・淡路大震災体験談」を語っていただいた。

イ) 津波避難計画策定ワークショップ

(5月27日)

四万十市総務課防災係、四万十市建設協会の協力を得て、津波避難のワークショ



ップを本校で2回実施した。多くの児童・保護者・地域の方々が参加した。

ウ) 地震に備えて家庭でできること

(7月10日)

高知県住宅課 川崎和久 チーフを講師に迎え、「地震に備えて」と題して、各家庭で防災・減災に関してできること、しなければならないことを、住宅模型を使って説明していただいた。



エ) 防災学習講演会① (8月24日)

東京農工大学 降旗信一 教授を講師に、保護者・地域の方・教職員を対象とした講演会を実施した。東日本大震災の際、人々がどのように津波から避難をしたのかを詳しく説明してくださり、いざという時に備えてどのような心構えが必要なのか大変参考になった。



オ) フィールドワーク (8月6日)

高知大学 岡村眞 特任教授と地域の方々、教職員で水戸、串江、下田、馬越、鍋島地区のフィールドワークを行い、危険箇所や安全箇所を確認した。参加者からも自分達の暮らす地区は安全なのか、自主防災をどのように進めていったらよいのか等の質問が出された。地形や地質等の具体的な説明や各地区での夜間の避難訓練に関して提言もあり、今後の備えに関して参考になった。



カ) 防災学習講演会② (10月15日)

高知大学 岡村眞 特任教授のお話から、今後予想される南海トラフ巨大地震の発生メカニズムや規模、被害状況の様子、津波の高さや到達時間等、児童を含め参観者全員が今まさに知りたい情報を得ることができた。強い揺れが2分近く続けば南海トラフ巨大地震と思い、必ず巨大な津波が襲ってくることを普段から意識すること、津波から避難するためには、先ず自分の命をしっかり守るための具体的な対策が必要であることを学んだ。地震の大きな音を流したり緊急地震速報を活用したりした避難訓練の実施など、具体的な示唆もいただいた。

③防災参観日 (12月22日)

保護者やPTA役員、地域の方々、四万十市消防署、下田消防分団に協力していただき、防災参観日を実施した。四万十市消防署、下田消防分団からは、けが人の搬送方法や消火器を使った消火訓練を学んだ。また、地域の方々やPTA役員、保護者の方に協力をしてもらっての

炊き出し模擬体験を行った。午後からは、防災フェス2012で学んだ避難生活グッズ作りを消防署や消防分団の方々に協力してもらって行った。6年生は炊き出しの給仕やグッズ作りの伝達を進んで行った。



【牛乳パック皿作り】

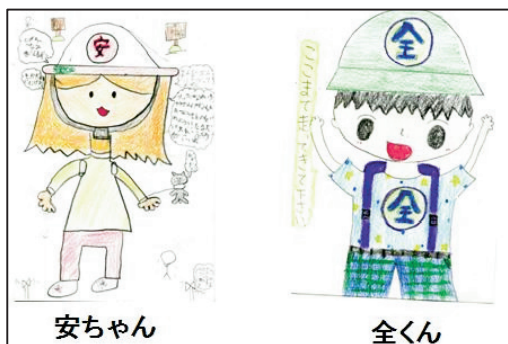


【新聞紙座布団作り】

(4) 防災意識を高める取組

①防災キャラクター

児童・保護者・教職員の投票で防災キャラクター(安ちゃん・全くくん)を選ぶ。



②防災標語を掲載した行事カレンダー

毎月各家庭に配布している「行事カレンダー」に、子どもたちの防災標語を掲載している。誰の作品が選ばれるか、子どもたちも楽しみにしている。

平成24年 9月行事						
生活目標： みんなと仲良くしよう！						
防災・安全標語： ゆれがきた おさまるまでは 動かない						
(3年)						
月	火	水	木	金	土	日
					1	2
						始業式 地域一斉 避難訓練
3	4	5	6	7	8	9
身体計測	PTA 拡大委 員会	英語 委員会活動	参観日 プール納め スフィアの夜	代休		
10	11	12	13	14	15	16
運動会練習開始 スクールカウンセ リング (SC)		発表朝会 (1年)	種目決定	仮プログラ ム作成		
17	18	19	20	21	22	23
祝日 敬老の日	係会	編練習	本プログラ ム作成 街頭指導	尿検査	運動会前 日準備 弁当	運動会 弁当
24	25	26	27	28	29	30
代休	代休			代表委員会		

【行事カレンダーに掲載の防災標語】

IV 成果と今後の取組

1 成果

- 地域の人の地震の体験談を聞かせていただき、地震の恐ろしさについて知り、その後の学習につなげることができた。
- 児童が実際に地域を歩きながら防災マップを作成したことで、避難道や避難場所などを知り、防災対策について考え情報発信にまで取り組むことができた。
- 遠足・掃除中・体育館での学習中など、全校で様々な場面や4つの避難経路での避難訓練を繰り返すことにより、防災の意識付けができ素早い避難の仕方を考え、自ら判断し行動できるようになってきた。
- 上級生に整列させる、人数確認などを任せることで、主体的に行動し指示ができるようになり、上級生としての自覚や優しさが育ち、下級生の目標となっている。
- 防災体験活動や研修、防災参観日等に、地域自主防災組織や消防署と一体となって取り組み、協力・協働の精神を育めた。

2 今後の取組について

- 防災教育を教育課程にどう反映させていくか、各教科にどのように関連させて指導していくか検討が必要である。
- 登下校中の避難訓練や夜間の避難訓練等、今後も家庭や地域に呼びかけての協力体制を作り上げていかなければならない。